

趣旨

新市庁舎整備予定地で発掘された遺構の活用について、専門家の意見を取り入れながら検討することを目的とし、遺構の展示等、新市庁舎の外構と低層部において市民にわかりやすい表現について検討する。検討プロセスを明らかにするとともに、可能な限り客観的な基準に基づき、歴史的遺構を最大限活用するプランを検証する。

経緯

地区計画の「建築物の形態又は意匠の制限 / 3 地区内に存する歴史的資産や環境資源を最大限保全・活用し、これらの意匠を積極的に取り入れ生かしていく。」の規定に基づき、

①遺構の保全については、事業者たる横浜市の判断により計画の取りまとめ

②遺構の活用については、これまで都市景観協議や横浜市都市美対策審議会景観審査部会への付議を経て、遺構の取り扱いについてまとめてきた。

さらに、都市美対策審議会において、「市民に分かりやすい展示とすべし」等の意見が付けられましたが、結論として「歴史遺構の活用検討の進め方については概ね了承とし、今後は専門家に意見を聴きながら協議を進める。」となり、現行の活用案をより良いものとするため本検討会が設けられた。

開催スケジュール

- ・ 第1回 平成28年12月27日(火) 16～18時 検討内容・現状計画・条件の共有
- ・ 第2回 平成29年1月24日(火) 16～18時 収集した事例をもとに検討
- ・ 第3回 平成29年2月21日(火) 16～18時 具体的な活用方法の立案

検討会議参加者

有識者（敬称略）

- ・ 青木祐介 [専門家・歴史]（横浜都市発展記念館/横浜市歴史的景観保全委員）
- ・ 中島徹 [専門家・歴史]（株式会社竹中工務店 設計本部アドバンスデザイン部伝統建築グループ長）
- ・ 熊谷玄 [専門家・ランドスケープ]（株式会社スタジオゲンクマガイ代表/コンセプトブック受託者）

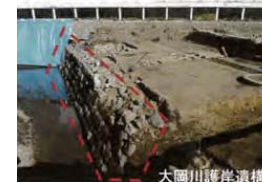
関係組織（敬称略）

- ・ 株式会社竹中工務店（設計者）
- ・ 株式会社楨総合計画事務所
- ・ 株式会社スタジオゲンクマガイ
- ・ 横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課
- ・ 横浜市総務局・建築局新市庁舎整備担当（事務局）
- ・ 横浜市都市整備局都市デザイン室（事務局）

主な検討対象となる遺構

① 石積み護岸

- ・ 現在の護岸(明治期)の東側から出土。一部の石積は取り外され周辺の建物基礎などに利用されていた。
- ・ 江戸時代末期という時代性に意味のある遺構。
- ・ 一部山留計画外であるため、残すことは可能だが、深い位置にあるので、出土位置での展示は難しい。



② 燈台寮基礎・排水施設

- ・ 明治3年頃に建設されたレンガ造の建物基礎、基礎下部に敷設されていたレンガ造排水設備の一部。
- ・ 山留計画内であるため、出土位置での展示は不可。遺構が大きく、地震の影響によるひび割れなど損傷が激しい。



③ 旧本町小学校基礎

- ・ 明治30年頃に横浜商業学校として建設され、明治38年から初代本町小学校の校舎として使用され、関東大震災にて倒壊した建物の基礎。
- ・ 山留計画内であるため、出土位置での展示は不可。
- ・ 横浜商業高等学校・本町小学校からの要請があり、基礎の一部を切り取り、両校に移設。



④ 横浜銀行集会所基礎

- ・ 明治38年に建設された現在の横浜銀行協会・旧横浜銀行集会所の前身にあたる建物。関東大震災で被災・倒壊した建物の基礎部分と隆起した地層部分が確認できる。
- ・ 山留計画内であるため、出土位置での展示は不可。
- ・ 倒壊した建物の基礎部分と隆起した地層部分を一体的に剥ぎ取りサンプル処理済み。



⑤ 石組の遺構など

- ・ 建物跡の周辺から出土した石組の排水施設や構造物の基礎と思われる遺構。
- ・ 山留計画内であるため、出土位置での展示は不可。



活用の考え方・評価軸

下記の活用の考え方・評価軸を用いて、プランの妥当性を検証する。

(1) 展示ストーリーの検証

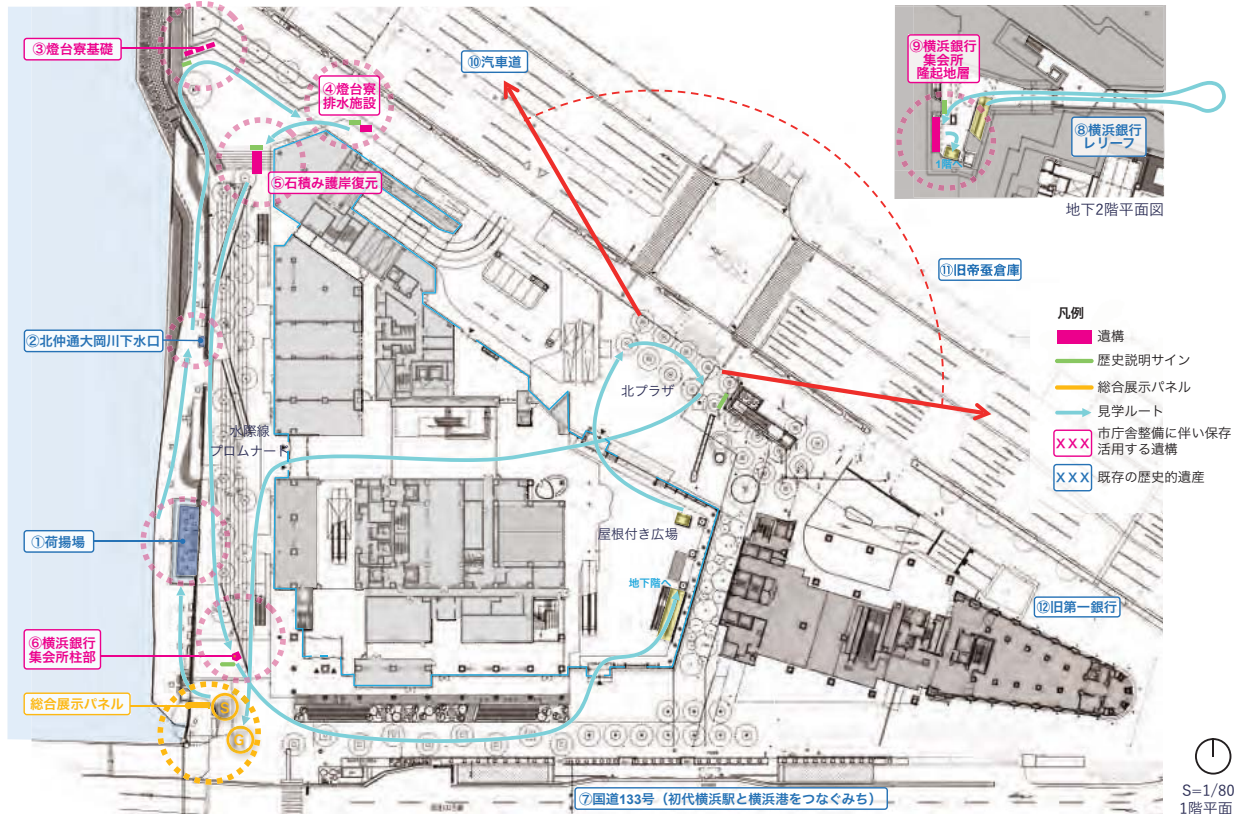
- 開港以来の歴史の重層性を大切に、その中でも関東大震災は重要なエポックとすること。
- 視線に入りやすく、わかりやすい展示物を可能な限りワンフロアで展示すること。
- 「わかりやすく」を大切に、出土位置に可能な限り近い場所で見せていくこと。
- 横浜・北仲通の歴史の一部に歩きながら、知り、触れられること。
- ランドスケープの一部として溶け込んでいること。
- 将来に向けて、この検討自体が横浜市の文化財保護の1つの方法として、モデルケースとなること。

(2) 活用の視点

- ア. ストーリーとの整合性
出土の位置との関係(近いどうか) / 分かりやすさ(誤解を生まない) / ランドスケープとして自然に溶け込んでいるか / ユニバーサルデザイン(他のサインと混同させない)
- イ. 回遊性(なるべくワンフロアで展示を行う)
- ウ. 対流性(ガイドツアー等のしやすさ)
- エ. 全体のバランス
(低層部コンセプトとの整合性・商業など他の機能との関係性)
- オ. 持続可能性
(メンテナンス・管理のしやすさ・将来に向けた汎用性・コスト)

展示のストーリー

低層部デザインコンセプトの「歩いてたのしめる重ねた街」の考え方をもとに、主に外構・一部地下階を回遊し、展示を巡る計画としている。橋詰広場には、当敷地の特徴(遺構含む)を示す総合展示パネルを設ける。見学ルートについては、時間軸は概ね古いものから新しい時間に進むようになっており、遺構を見学した後に北プラザで、六大事業でできた現在のみなとみらいの姿を説明してもらうことを想定している。市庁舎が必ずしもフルオープンであるとは限らないことから、主に屋外のルートを設定している。また、敷地内の遺構だけでなく、周辺の遺構の情報も案内することを考える。



総合展示パネル

① 荷揚場

明治初期英国人技師プラントンの設計により整備された石積護岸における荷揚場の階段。



⑫ 旧第一銀行

第一銀行横浜支店(昭和4年)を横浜アイランドタワーの完成とともに一部移築復元した。



② 北仲通大岡川下水口

関内石造下水(明治14年)の排水口と判断されるもの。



⑪ 旧帝蚕倉庫

建築家・遠藤遠藤於充により関東大震災後に建てられた生糸絹物専用倉庫。(昭和元年)



③ 燈台寮基礎

燈台寮の試験場(明治3年)として建設されたレンガ造の建物基礎の一部。



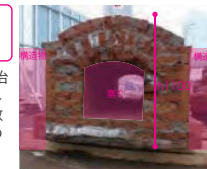
⑩ 汽車道

旧横浜駅と新港埠頭を結ぶ臨港線の廃線跡を利用した歩行者空間。



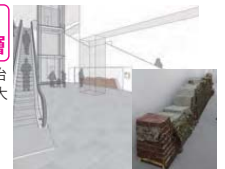
④ 燈台寮排水施設

燈台寮の試験場(明治3年)として建設された建物基礎下部に敷設された排水施設の一部。



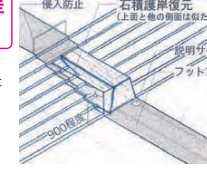
⑨ 横浜銀行集会所隆起地層

横浜銀行集会所(明治38年)の基礎と関東大震災において隆起した地層を剥ぎ取ったもの。



⑤ 石積み護岸復元

現在の護岸(明治期)の東側から出土した石積み護岸。



⑧ 横浜銀行集会所レリーフ

馬車道駅に展示されている横浜銀行の本社屋のレリーフ。



⑥ 横浜銀行集会所柱部

横浜銀行集会所(明治38年)の柱部。



⑦ 国道133号

初代横浜駅と横浜港をつないでいた道。



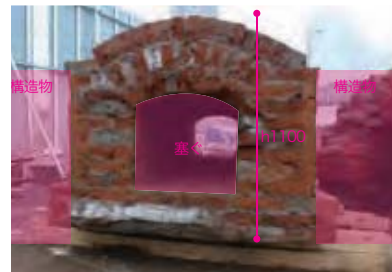
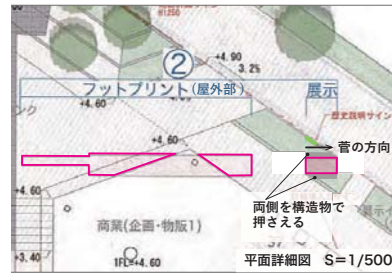
③ 燈台寮基礎



概要
燈台寮の試験場(明治3年)として建設されたレンガ造の建物基礎の一部。

展示方法
・下部700mm程度を埋設し、柵が必要であれば護岸の柵と合わせてデザインを考慮する。

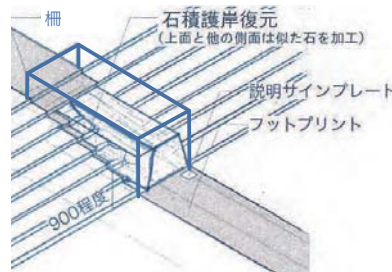
④ 燈台寮排水施設



概要
燈台寮の試験場(明治3年)として建設された建物基礎下部に敷設された排水施設の一部。

展示方法
・設置場所の植栽地を切り欠き、必要に応じて両サイドを支える構造物で固定する。
・穴は事故防止のためガラス等で塞ぐ加工をする方向で検討する。
・配置の向きは排水施設とわかるように出土位置を示すフットプリント(屋外部)と合わせよう考慮する。

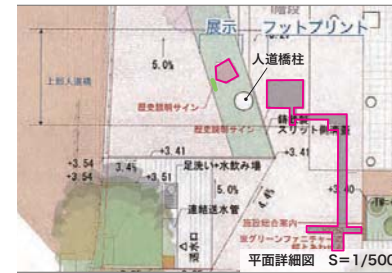
⑤ 石積み護岸



概要
現在の護岸(明治期)の東側から出土した石積み護岸。西側の1面のみの石積みが出土している。

展示方法
・石積み護岸は、階段先端より伸びる形で護岸を復元することをベースに柵などで安全性を考慮する。
・柵については将来的に他の遺構での設置が必要になることが考えられるので、手すり柵の機能を兼ねるなど前向きにデザインする。
・石積み護岸が出土した位置を舗装を切り替えたフットプリントで示す。

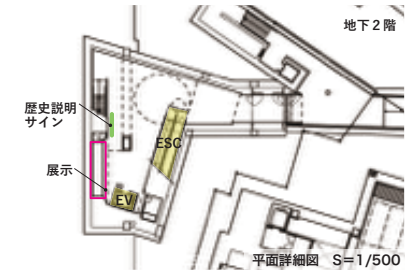
⑥ 横浜銀行集会所柱部



概要
横浜銀行集会所(明治38年)の柱部。目地に色目地が使用されているなどの特徴があり、特徴が見えるよう、階段があった場所を意図的に切り出している。

展示方法
・設置場所が人道橋の下であることから、なるべく開放的にしたいため、柵を設ける必要のない高さまで埋設する。
・遺構の特徴部分を見せられるよう設置の向きを考慮する。
・横浜銀行集会所基礎が出土した位置を舗装を切り替えたフットプリントで示す。

⑨ 横浜銀行集会所隆起地層



概要
横浜銀行集会所(明治38年)の基礎と関東大震災において隆起した地層を剥ぎ取ったもの。現物そのものを取り出すことが困難であった中で、の最善策として一面のみ剥ぎ取られている。

展示方法
・一面しか展示できないため、地下2階の馬車道駅からの接続部の壁面に展示する。
・地下にあったとしても、わかりやすくするため、サインや説明の仕方を工夫して展示する。

その他の検討事項

サインについて

- ・筐体は竹中工務店によるデザインとする。現在北仲通や馬車道で様々なデザインのサインが使われているが、それらとの統一感を持たせるよう検討する。
- ・今後も周囲で遺構が見つかることも考えられるので、横浜の遺構のサインのスタンダードとなるものを作り出すよう検討する。

ガイドツアーについて

- ・展示のストーリーに合わせてガイドツアーを組むことを検討する。
- ・ガイドツアーについては、横浜市各局が協力して情報収集・整理を行い、わかりやすいものにしていくことが望ましく今後検討する。